

# まちづくりが一番の趣味

はまだたけし  
高槻市長(大阪府) 濱田剛史



## 歴史のまち高槻

高槻市は、大阪と京都のちょうど中間に位置します。京都から発する西国街道は市域を東西に貫き山陽へつながり、高槻から北への街道は丹波国から山陰へつながります。南には全国有数の大河、淀川が流れ、この大河は古代から人や物資の大量輸送を担っていました。都に近く、街道と河川による交通の要衝として栄えた高槻市域には、国史跡をはじめ、有形無形の文化財が数多く存在します。

国史跡は七つあり、その代表的なものとしては、近畿最古級の水田遺跡が発見され



今城塚古墳埴輪祭礼場

た弥生時代前期の環濠遺跡である安満遺跡、古墳時代では真の継体天皇の陵墓といわれる今城塚古墳や古代の大政治家、藤原鎌足の墳墓といわれる阿武山古墳もあります。なお、今城塚古墳から出土した形象埴輪群の埴輪数は全国一を誇ります。また、戦国時代、三好長慶が近畿一円を統治するための政庁とした芥川城もあります。これら国史跡以外にも、卑弥呼が魏から入手したとされる銅鏡が出土した安満宮山古墳や、戦国期から江戸期を通じて存在感を示した高槻城など、史跡は多数に上ります。

また、文化財では、市内で発見された「金銅 石川年足墓誌」は国宝に指定されているほか、多数の重要文化財が存在します。

## 趣味と実益を兼ねる

私は好奇心が強いのか、趣味は多岐にわたります。主な趣味は、将棋、ギター演奏、登山、読書や歴史探究といったところです。私は平成5年に司法試験に合格し、その後、司法修習をする中で、刑事手続、特に犯罪捜査に携わりたいとの思いを持ち、修習修了後は希望して検事に任官しました。検察庁では主に犯罪捜査の部署に所属し、充実した毎日を送りました。その後、退官して弁護士として活動する中、本市の仕事に携わったことが縁となって市長選に挑戦することとなり、現在に至っています。

さて、大阪府域で、高槻といえばベッド

タウンの印象が強く、史跡や文化財に恵まれていることが一般にあまり知られていませんでした。

しかし、それがかえって、私の心に本市の歴史探究への意欲を生み、市長就任後は高槻に関連する歴史の書籍を読んだり、市内の史跡や旧村などへ出向き、各地域の方々から昔話を聞くなどし、それらをまちづくりを生かす方策に思いを巡らせるようになりました。

思えば私がかつて経験した犯罪捜査も、過去の事実を解明するという点では歴史探究と共通点があり、どうも私はこういう類いの作業が好きなようです。

そのような中、平成29年に入った頃、私の目を引いたのが、高槻城跡から発掘された江戸期の将棋駒でした。その発掘数は全



【高槻市蔵】出土将棋駒



自治体初の包括連携協定

国2番目となるものですが、当時は本市の博物館内にひっそりと保管され、あまり発信もされていませんでした。

将棋ファンの私は、この発掘成果に興味を持ち、さらに調べると、高槻とその周辺地域では、古くからの将棋文化が残っていること、本市出身の棋士や、現在居住する棋士も多数おられることなどがわかりました。

本市では、それまで将棋関連の取り組みはしていなかったのですが、これを機に将棋振興に取り組みむこととし、平成30年に自治体では初めてとなる日本将棋連盟との包括連携協定を締結し、将棋大会の開催や、タイトル戦である名人戦、王将戦対局の誘致などを進めました。

### 趣味の将棋と関西将棋会館の誘致

さて、日本将棋連盟は唯一の将棋プロ棋士団体で、本部となる東京の「将棋会館」と関西本部が置かれる「関西将棋会館」の2カ所の活動拠点を有し、棋士や女流棋士の方々は、年間を通じて両会館を行き来し対局を行っています。

本市が将棋振興の取り組みを始めた頃、既に東京の将棋会館の建て替えの話題がメ

ディアなどをにぎわしており、私も将棋ファンの一人として注目していました。

そんな中、ある時ふと私の頭の中に、「そういういえば関西将棋会館の方はどうなっているのか。高槻にその移転建て替えを誘致できないか」との考えが浮かんだのです。

私を含め、将棋ファンの固定的な認識は「関西将棋会館は大阪市内にある」というもの。しかし、改めて考えると、高槻は、新幹線なら東京方面からは京都駅、博多方面からは新大阪駅で降り、それぞれ在来線に乗り換えをすれば、どちらからも15分程度で到着します。特に東西を行き来する棋士の交通利便性という点では最適地です。

私はすぐにこの考えを職員に話し、庁内で検討を進めた結果、同連盟へは駅前にある市有地の譲渡が可能であること、建設費用の寄付募集もふるさと納税制度が利用できることなどの好条件を提示できるという結論を得て、令和元年8月、同連盟に本市への移転建て替えの提案をさせていただきました。この当時、同連盟では関西将棋会館の建て替えの検討はされておらず、突然の本市からの提案に驚かれていましたが、その後、同連盟と本市の協議は順調に進み、令和3年4月、関西将棋会館の高槻への移転建て替えが正式に決



関西将棋会館移転に係る合意書

まりました。

移転建て替えの誘致から約5年目となる本年12月、新関西将棋会館がオープンします。それに先立ち、本市は「将棋のまち推進条例」を制定し、永続的に将棋振興をまちづくりを生かしていく体制を整えました。

市長という仕事に就き、その中で、読書、歴史探究から将棋と、自身の趣味がまちづくりに生かされたことを喜ばしく感じています。もはや「まちづくり」は私の一番の趣味となった感があります。今後も楽しくまちづくりを進めていきたいと思えます。